

## 令和3年度 第15回富士宮市高校生議会 成果に関する報告

学校名	氏名	質問事項
<b>星陵高等学校</b>	<b>齋藤 菜月</b>	<b>ICT教育やネットリテラシー教育の推進について</b>
質問内容	<p>学校では、デジタル教科書の活用や1人1台パソコンの導入、保護者向けの文書デジタル化などのICT教育が進んでいるため、それらをよりよく取り入れるために、教師へのICT教育の研修を充実できないか。また、SNSを利用することで、人間関係のトラブルや、事件に巻き込まれる危険性があるため、生徒にSNS利用の危険性や肖像権などを指導する講座を行えないか。</p>	
成果	<p>令和4年1月及び2月に、「インターネットを正しく使いこなすための知識や能力」いわゆる、ネットリテラシー・情報モラルの指導に関するICT研修会を行いました。また、令和4年10月に、児童生徒向け情報モラル教材を1人1台パソコンに追加導入し、こちらを活用して学校や家庭において指導を進めています。</p>	
<b>富岳館高等学校</b>	<b>板倉 穂伽</b>	<b>ごみの分別について</b>
質問内容	<p>若い人たちは、ごみの分別についての知識が少ないと思う。子どもの頃からごみの分別をする知識があれば、自ら分別し、ごみの削減やリサイクルなどの行動につながると思う。市の担当者が、小中学校へ積極的に出向いてごみの分別に関する講座を開けないか。</p>	
成果	<p>令和4年5月に、市内の全小中学校に対し出前講座の希望を聞き取り、小学校4校で実施しました。今後も、定期的に出前講座の希望を聞き取り、講座以外の方法でも、ごみの分別の理解を深めるための周知を行ってまいります。</p>	
<b>富岳館高等学校</b>	<b>柏木 夢咲</b>	<b>難聴者の住みやすい街づくりについて</b>
質問内容	<p>難聴者への接し方を理解している人が少ないと聞いた。難聴者が孤立しない街づくりが必要だと考える。難聴者とのコミュニケーションの仕方を理解するため、小中学生が手話に触れる機会を増やすことや、企業が難聴者をサポートできる体制を作れないか。</p>	
成果	<p>手話の普及啓発活動として、令和4年4月から毎月、広報ふじのみやに手話の挨拶を画像付きで紹介しています。また、手話の普及のために、令和4年度に5つの小中学校で手話講座等の福祉教育を行いました。</p>	

学校名	氏名	質問事項
-----	----	------

富士宮東高等学校	加藤 穂乃	SDGsの浸透について
質問内容	市が行った調査によると、市民のSDGsの認知度は12.6%と低かった。まずは、SDGsを知ってもらうことが大切だと思う。SDGsを知るきっかけになるように、学生を対象としたポスターコンテストを開催し、受賞者のポスターを街中に貼ったらどうか。	
成果	令和4年度の小中学生の夏休みの課題として、「SDGsポスターコンテスト」を実施し624点の応募がありました。11月14日に表彰式を行い、最優秀賞及び優秀賞は、各イベントなどで展示するほか、出前講座で使用するガイドブックに掲載します。	

富士宮東高等学校	片岡 祐貴	SNSの活用について
質問内容	市の公式SNSは、内容が固く魅力がない。また、他言語の字幕がないなど、課題が多いと思う。SNSの利用頻度が高い学生をボラバイト(ボランティア+バイト)として募集し、動画の企画や、SNSの活用を手伝ってもらったらどうか。また、市長や部長も動画で発信したらどうか。	
成果	富士宮東高等学校の生徒が、若者向けの市PR動画を作成し、令和4年12月17日の高校生議会の本会議前に披露します。完成した動画は、今後、市公式YouTubeやSNSで発信するなど、市のPRに活用します。	

富士宮北高等学校	井上 七海	外見からはわからない障がいのある人へのマークの配布について
質問内容	外見からはわからない障がいのある人が、ゆずりあい駐車場を利用すると冷たい目で見られることがある。新たなマークを作り、外見からはわからない障がいのある人へ配布できないか。また、キーホルダーやステッカーなどにして、シトラスリボン運動のように周知する活動ができないか。	
成果	外見からは分からないが、援助や配慮が必要なことを周囲に知らせる「ヘルプマーク」があります。このヘルプマークの普及のための紹介記事を令和4年2月の広報ふじのみやに掲載しました。また、7月に行われた福祉大会の受付での啓発活動や、障がい療育支援課窓口での掲示の拡大を行っています。その結果、令和3年度に配布したヘルプマークの枚数は154枚だったのに対し、令和4年4月～11月の間に、例年を上回る200枚を配布しました。	

学校名	氏名	質問事項
-----	----	------

富士宮北高等学校	望月 弥咲	デジタル化にともなう市民への対応について
質問内容	デジタル化が進み、多くのことがスマートフォンでできるようになったが、デジタル機器の操作を難しいと感じる人が多い。例えば高校生が高齢者にスマートフォンの使い方を教える教室を開くことができないか。高校生にとっても高齢者との交流の機会が持て、双方にメリットがある。	
成果	令和4年12月、市職員が富士宮北高等学校の生徒会に、マイナンバーカードの利点やスマートフォンを使った申請方法を説明しました。これを受け、生徒会では、マイナンバーカードに関する動画を作成し、昼食時に、全教室のモニターを通じて動画を放送するなど、普及活動を行っています。マイナンバーカードについて理解を深めた生徒たちが、今後、デジタル機器の操作が難しい家族や知り合いに普及活動をすることで、「インターネットなどを使える人と使えない人との間に生じる格差」いわゆる、デジタルデバイドの解消と高齢者などとの交流が期待できます。	

富士宮高等専修学校	芦沢 海斗	新バイパスの建設について
質問内容	西富士道路は、通勤時や観光シーズンに大渋滞する。旧料金所付近にインターチェンジを作り、国道469号に接続する新道路ができると、渋滞の緩和のほか、工業団地とつながり物流が発展し、新しい企業の誘致や観光客の増加にもつながると思う。新しいバイパス道路を建設したらどうか。	
成果	西富士道路の交通渋滞解消や地域交流、経済の発展のため、田子の浦と富士山南麓を結ぶ新バイパスの建設促進を目的に、令和4年1月29日に富士宮市道路建設促進期成同盟会を設立し、6月に総会を開催しました。9月には、斉藤国土交通大臣をはじめ、国土交通省や財務省に、国による渋滞等問題解決に向けた機能向上の調査実施について要望しました。 国道の新バイパスの実現には、長い年月を要しますが、一日も早く実現できるよう、引き続き関係機関に働きかけや協議をします。 また、新東名高速道路の新富士ICから北へ向かい、ミニストップ富士宮杉田店から大岩地域を經由し、国道469号に接続する道路整備を行います。	

富士宮高等専修学校	村松 まり子	ウォーキングコースの設定について
質問内容	歩くことで、体調が優れ、食欲も出て、しっかり眠れるようになる。市民の健康増進や市外からの観光客を増やすため、おすすめウォーキングコース10選を設定できないか。設定するコースには、距離や所要時間、消費カロリーなどを記載したらどうか。	
成果	市内6つのウォーキングコースを紹介している「富士宮市周遊ウォーキングマップ」が改訂時期を迎えるため、これらのコースと提案のコースを融合できるよう検討しています。 また、地区担当の保健師などが地域に出向いた時などに、身近なウォーキングコースを紹介するとともに、健康づくりに効果的な歩き方や生活習慣病との関係など、ウォーキングが心身の健康にもたらす効果を伝えていきたいと考えています。	

学校名	氏名	質問事項
-----	----	------

富士宮西高等学校	鈴木 直斗	道路へのイメージハンプの設置について
質問内容	<p>家の近所（猫沢のロータスランド付近）に、見通しが悪く交通事故の多い交差点がある。目の錯覚を利用し、凸凹があるように見える路面塗装「イメージハンプ」は車両の速度抑制効果が期待できる。そこで、この交差点に、イメージハンプを設置できないか。</p>	
成果	<p>令和4年3月、この交差点に、東西方向から進入する道路上に、三角柱の立体物が路面にあるように見えるマウンテンタイプの「イメージハンプ」を設置しました。その結果、事故件数は昨年度に比べ減少しています。</p>	